



MIDOSUJI / NAGAHORI / REPORT

No. 43

発行：NPO 法人 御堂筋・長堀 21 世紀の会／発行人：成松孝／連絡先：EL06-6241-0505／mail：npong21@hyper.con.ne.jp

新春特別寄稿

新しい世紀のみちの創出を！ 御堂筋から



(一般財団法人) 国土技術研究センター
理事長 谷口博昭

谷口博昭氏プロフィール

昭和 47 年、4 月に東京大学工学部（土木）を卒業し 5 月に建設省入省。数々の要職を経て平成 22 年 8 月国土交通事務次官を勇退された日本の道路行政のトップ。「道路ルネッサンス」のスローガンの基、新しい時代の道路政策を提唱され、「車の道から人のみちへ」の基本理念は、当会の街づくりの指標となっている。

明けましておめでとうございます。

NPO 御堂筋・長堀 21 世紀の会の 30 余年に亘る種々の精力的な取り組み、活動に敬意を表する次第です。

日本は、道の文化、街道の文化と言われます。「みち」の接頭語「み」には意味がなく「みち」＝「ち」であります。「ち」はあっち、こっちの「ち」です。「ち」が分かれるところが「ちまた」、「ち」の交差するところに、いち（市）が出来、賑わいが出来、大きな集落に発展し、「まち」が形成された歴史が読み取れます。「みち」が良くなれば、「まち」が良くなるということでもあります。

外国でも“Better Road, Better Life”と言われます。道路が良くなれば暮らしが良くなるということでもあります。古今東西の教えは、「みち」、「まち」、「くらし」が密接な関係があるということでもあります。

暮らしは時代に応じて変化します。その変化に適切に対応し、より良い使い方ができるような「みち」のつくり方、守り方をすることが肝要であります。

約 10 年前、これからの「みち」づくりは、自歩道や植樹帯等の道路空間機能、沿道の奥行、広がりや沿道との協働等を重視すべきと考え、“車から人へ”、“道ルネッサンス”を提唱しました。その理念の下、アメリカのシーニックバイウェイに学び、景観、自然、歴史、文化、レクリエーション、考古学といった要素を重視した「日本風景街道」が成立、現在 135 地域が認定されています。

高速道路や環状道路が整備されると、広域交通や通過交通が転換し、併行する道路やまちなかの道路の使い方の「車から人へ」の選択余地が広がります。車道偏重から解き放たれ、自歩道とそのバリアフリー化、植樹帯や電線の地中化の整備促進が期待されます。

「道の駅」は、トイレ等の休憩機能、地域・交通等の情報

発信機能、地場産品直売等の地域連携機能という 3 つの機能に防災機能が付加され、現在 1079 駅が登録されています。地方創生の拠点としても期待されていますが、拠点から線、面＝まちへの更なる展開とともにそうした活動を支援するシーニックバイウェイ基金の様な支援制度の充実が期待されます。

狭隘だった御堂筋は、昭和初めに「まち中に滑走路を造る気か」というような批判を乗り越え、地下鉄併設、側道やイチョウ植樹等画期的な幅広い道路整備がなされ大阪のシンボル道路となりました。また、沿道開発利益還元の観点も取り入れています。

このような時代を先取りした御堂筋も、その後モータリゼーションによる交通量増加には十分に対応できず、大阪万博時に一方通行になりました。その後の都市高速道路整備等の変化に応じて、まちなかの道路のあり方が問われています。

これまでに御堂筋パレード、御堂筋フェスタ、最近ではイルミネーション、F-1 などのイベントが実施されてきています。また、側道を自転車道にする等の社会実験も実施されています。こうした実績をバネに、道頓堀や中の島との連携向上とエリアマネジメントにより更なる魅力創出が期待されます。

嘗て大阪は「天下の台所」と言われ、商人、民の力で「道頓堀」や「淀屋橋」等の先導的なインフラ整備、通天閣や大阪城等のまちのシンボルづくりがなされてきました。地盤沈下が顕著な大阪であります。民間企業や市民と行政が、危機意識を共有し、パートナーシップ精神で、御堂筋を新世紀に相応しく再整備し、海外も含めて多くの方々から愛され大いに利用され、大阪が再び活気を取り戻し光り輝くことを期待したい。

新春特別寄稿



御堂筋沿道のまちづくり エリアを超えて連携を

大阪市副市長
田中 清剛



新年 あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、心からお喜び申し上げます。

「NPO 法人 御堂筋・長堀 21 世紀の会」におかれましては、1982 年の発会以来長きにわたり、長堀・心斎橋エリアの発展に向けたまちづくり提言活動に取り組まれるとともに、日常の清掃活動や放置自転車対策の環境・美化活動などにも積極的に取り組まれております。

長堀・心斎橋は時代ごとに様子を变えながらも、おしゃれなまちとして常にファッション・文化をリードしてきたエリアであり、現在では、世界的なスーパーブランドが集積するファッション・ストリートとして発展し、国内はもとより、アジア各国をはじめとする海外から多くのお客様が来訪する非常に魅力ある街となっております。これも貴会の粘り強い取り組みがあってのものと、深く敬意を表するものであります。

また、長さ 4km にわたって都心の中央部を南北に貫き、イチヨウ並木が 4 列に並ぶ御堂筋は、世界に誇れる風格あるストリートであり、大阪経済を活性化できる、そして観光スポットとして人を惹きつけることができるポテンシャルのある都市軸です。

この御堂筋エリアを、これまで培ってきた業務・商業の

集積の強みを生かしながら、24 時間稼働する魅力的な多機能エリアをめざし、大阪の伝統と革新が生み出す世界的ブランド・ストリートとして、再生・発展させていきたいと考えております。

そのためには、御堂筋沿道のまちづくり団体がそれぞれのエリアを超えて連携し、そして官民が一体となって取り組みを進める必要があります。この考えはすでに官民で共有され、昨年は、御堂筋沿道のまちづくり 3 団体が一堂に会した「御堂筋シンポジウム」が貴会の主催により開催され、また本市においても、梅田・中之島・御堂筋のまちづくり団体が参加する意見交換会をスタートし、都心部の魅力向上に向けた検討を始めたところです。

昨年、御堂筋は中之島エリアとあわせて特定都市再生緊急整備地域に追加指定され、その地域整備方針として、道路空間を再編し、御堂筋に面する壁面後退部分と一体となって、歩行者が楽しみながら安心して歩くことができる空間を形成すること、心斎橋エリアでは、インバウンド機能が充実した先進的商業空間を創出し、周辺と一体となった世界の観光拠点を形成することなどが示されました。是非ともこれらを実現すべく、官民一丸となって邁進していきたいと思っておりますので、会員皆様のご協力、お力添えをよろしくお願いいたします。

★

ストックがあるのに、これではもったいない。これを電車か何かで結んでナンバと回遊性を持たせると、天王寺とナンバは一つの大きな魅力スポットになる。ここは関空の玄関口ですよ。ここは梅田を繋ぐのが御堂筋。その御堂筋には、成松さんが言った特区が並ぶ。その東側には大阪城がある。そういう全体としてデザインを描いて、その中で御堂筋を位置づけしないと、このエリアの素晴らしいさが浮き上がってこない。そうやって初めて、「おしゃれな大人の散歩まち」のイメージが鮮やかに浮かんでくる。

成松 その通りですね。ヨーロッパは、100年200年といった長期的な国家戦略で街をつくりますが、日本はその時その時で、トップが変われば戦略も変わる。それを考えると、80年、堂々たる風格の御堂筋は特別貴重な財産です。シャネルやルイ・ヴィトンに、このエリアに出店した理由を聞くと、「樹齢50〜100年のイチヨウ並木が4列 都会の真ん中を4・2kmも並んでいるところは、世界中でここにしかないよ。あなたたちは、この価値を知らない過ぎる」と、言われました。

小河 御堂筋は素晴らしいストックです。ここをどう活かしていくか。街を創る事は喜びです。それをこの会の皆さんと共有できることは、うれしいですね。一緒にがんばりましょう。

成松 ありがとうございます。1指導、よろしく願ひ致します。 完

新春放談 2016

世界で、ここにしかない道
御堂筋成松 孝さん
×
小河 保之さん当会顧問
小河 保之
前・大阪府副知事理事長
成松 孝

やってやるじゃなく
やらせていただく・・・？

成松 あけましておめでとつございます。小河さんには、昨春秋顧問に就任していただき、貴重なご意見やご示唆を頂戴しまして、ありがとうございます。

小河 昔、冗談で退任したら入会すると言ったら、ほんとに成松さんに引き込まれた。(笑)

成松 今や「官民協働の街づくり」は常識になりました。協働とは役割分担のことで、互いの得意分野を活かして協力し合うと解釈しているのですが、小河さんは、どのようにお考えですか。

小河 官民の役割分担も時代によって変わります。インフラがなかった昔は、インフラ整備は、当然、官の役割です。インフラが整うと、今度はそれをどう使うかがテーマになる、そうなると街づくりの主役は、利用者である地域の皆さんです。これを芝居にたとえると、舞台は公共空間、主役は街の住民や企業、演出家が行政です。行政は芝居を盛り上げるための演出家、つまり、裏方です。

ところが、仕事熱心な行政マン

がいると、自分が主役になって旗を振る。自分たちが整備した街だから、「おれらが管理者だ」と思ってしまうんですね。でも、整備が終わると行政は引き揚げますから、管理を行政に委ねてしまうと、パターン化された特色のない街になって、寂れていくんです。街を良くしていくためには、行政は主役を盛り上げる演出家でないため。

成松 なるほど。なるほど。

小河 元々、街は地域住民のモノだから、維持管理も地元任せれば良い。ただ、安全面と公平性を守るためのリスク管理だけは行政がやらせていただく。

成松 「やってやる」じゃなくて、「やらせていただく」ですか？

小河 そうです。お互いに尊重し合える関係だと、街の人たちも喜んで街づくりに関わってくれる、街の人が関わるとその街らしい特色が出てくるし、街づくりが継続するので、さらに街は良くなっていく。私は、そういう機運を醸成することが、行政本来の役割だと思いますね。

地域の合意形成が必要です

成松 当会は、今年で35年めになりますが、前半の16年は長堀通りの地下鉄開通に伴う再開発に係わって、これが長堀の街づくりに結び付いてうまくいった



ので、今度は地域活性化・大阪活性化を御堂筋軸で13年間活動していますが、これがなかなか、具体的に進まない。

小河 御堂筋の場合は、駅前と違って広域ですから、沿道はエリアごとにカラーが違う。各エリアが、てんでバラバラに提案されると、行政は動けないんです。この違いを全体としてどう一本化していくかという地域の合意形成が必要でしょうね。

成松 長年、私は「御堂筋特区構想」を温めてきました。これは中之島エリアは「ビジネス特区」、心斎橋エリアは世界の「ブランド特区」、ミナミは食を含めた「エンターテインメント特区」にし、それぞれにトップレベルが集積するステータスエリアを形成します。御堂筋はそういう素晴らしいポテンシャルを持った大阪の、いや日本の「ステータスエリア」だと思っんです。だから、エリアごとのカラーに合った規制の緩和と強化が、ぜひ必要だと思います。

小河 そういう大きなビジョンが大事ですね。大阪の街づくりは、スポーツは素晴らしいがトータルの考え方が弱い。例えば、天王寺とナンバは歩いて20分位だけど、分断されているから心理的には遠い。天王寺には美術館も動物園も公園も、素晴らしい(左★に続く)



あなたのご意見お聞かせください

アンケートのご意見欄より

昨年暮に皆さまにお願いしました、この会の認知度に関するアンケートは、暮の繁忙期ということもあり、回答数が27でした。今の段階では、集計を取るには少しサンプル数が少なかったのですが、貴重なご意見が寄せられましたので、内容をまとめて紹介します。

- 御堂筋・長堀と名称を変えたことで、展開の広がりを感じる。
- 梅田・ナンバとは違う『おしゃれな大人の散歩まち』のスローガンに共感。
- 仕事が忙しくて活動にはなかなか参加できないが、会員であることで、活動を支えることになると考えています。
- 新規改装の折、的確な情報を頂けて助かった。個人では手に入りにくい地域情報の発信をお願いしたい。
- 防災・防火の活動も、今後の街づくり活動には必要だ。
- 御堂筋の銀杏が地上に落ち、臭いと汚れが酷い。大阪市は車道は清掃するが歩道はしないとのこと。銀杏をシンボルにしているのだから、ケアも活動の一環に組み入れるべきではないか。
- 会の活動のPR媒体として、H・Pをもっと活用すべき。
- 新入会員。入会によって、街を良くしたい気持ちが一層強まった。
- 意見の発表の場として、小グループによるブレインストーミングをもっと増やすのが良いと思う。
- 清掃活動は、地域を知るために大変貴重な機会だ。
- 新入会員さんには、どこかの部会にトライアル入部をしてもらうといいのでは。会に対する理解が深まるだけでなく、部会活動に新しい案や意見が出て、部会活動がリフレッシュすると思う。
- 会員同士のつながりがフレンドリーで、参加するのが楽しい。

街づくり部会では

将来、エリアマネジメント推進母体立ち上げのため、「御堂筋沿道地権者連絡協議会（仮称）」の設立を計画。その準備として、沿道地権者さんに「エリ・マネ」の趣旨説明に回っています。

エリアマネジメントとは

道路や公園などの公共施設・空間は、特色ある整備や管理が行われることはありません。これに対し、民間の街づくり団体が個々のエリアに見合った質の高い公共空間づくりや運営を手掛けることができる仕組みが、エリアマネジメントです。

10,11,12月の新入会員さん紹介

株式会社トウエンティワンプランニング

代表者：代表取締役 池田敬子

所在地：中央区南船場2-6-2

BSビルディング401号

紹介者：(株)三王 成松 孝

株式会社関西アーバン銀行

代表者：橋本 和正

所在地：中央区西心斎橋 1-2-4

紹介者：(株)シオ・アカマツ 高瀬孝司

一会員一社、紹介キャンペーン・実施中 ● 現在会員数111社。目標150社です。



12月2日、49名が参加した忘年会。会員交流部会のメンバー4人でギター（山内一郎）、フルート（大島弥生）、三味線（薬師寺洋子）、タンバリン（嶽下勇治）の異色のセッションで、クリスマスソングを演奏。舞台の4人に加えて、永井俊行常務理事の進行で宴会は大盛り上がり。にわかバンドを仕立てた会員交流部会長の大島さんは「皆さんに楽しんでもらえる忘年会にしたい。この次は会の皆さんからメンバー募集をしようかな…」と。ギターの山内さんの青春は、グループサウンズ時代。昔の仲間と40年ぶりにバンドを結成、ライブをやっているそうです。

会員拡大委員会では、

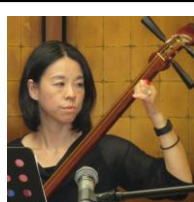
今年も引き続き、「一会員一社紹介キャンペーン」を継続します。絶大なご協力をお願いします。

清掃活動は

第1木曜=午前9時30分
第3火曜=午後12時30分
に集まって、30~50人参加でやっています。会員企業の社員さんもたくさん参加。「掃除で近所の会社の社員さんに出会えると、ちょっとうれしい。この街に愛着を感じます。」と若い社員さんたち。ビジネス街のご近所付き合い…、仕事の疲れも癒されそう。



会員交流部会の集いには、こんな笑顔がいっぱい!!



薬師寺洋子さん
(野村證券株
なんば支店)

会員交流部会に所属。「街づくりのお固い会だと思っていましたが、お掃除や会員交流のようなどても楽しい地域密着型の活動もあり、いい会です。もっと地域に広がってほしい。」





Year Album 2015

写真で綴る 2015年の活動記録

新年互礼会



新年互礼会

総会・審議風景



清掃活動：月2回、掃除は地域を繋ぐ交流活動



定例会でのブレインストーミング



街づくり部会
毎月1回、2時間の街づくり検討会をひらく。2015年度はシンポジウム開催という大仕事もあった。



街づくり部会
会議風景



御堂筋・長堀セミナー(6月17日開催)
税理士・辻一夫先生の「税務調査の話」



御堂筋シンポジウム 「御堂筋の未来とエリアマネジメント」(ホテル日航大阪)

2015年9月18日(金)、産・学・官・民が一堂に会し、御堂筋の未来を考えるシンポジウムを開催。街づくりに関しては日本でトップクラスの先生方を講師にお招きし、参加申し込みが殺到。定員180名を超える230名に絞って開催した、この年一番の大イベント。

御堂筋シンポジウム 御堂筋の未来とエリアマネジメント



ビアパーティ・忘年会・昼食会 ● 異業種交流の集い



2015年ご入会の会員企業様

株式会社オーク計画研究所		27.4
株式会社ウインクw		27,5
阪神高速道路株式会社		27,6
株式会社 サン・アクト		27,6
ヴァイタル・インフォメーション (株)大阪本部		27,7
光亜興産株式会社		27,7
(株)リックコミュニケーションズ		27,8
(株)トゥエンティワンプランニング		27,11
(株)関西アーバン銀行		27.12
個人	井口 正明	27,3
	橋本 育子	27,3
	北原 早津潔（さつき）	27,7



会員企業さん 募集中